

(1)環瀬戸内海地域における交流状況

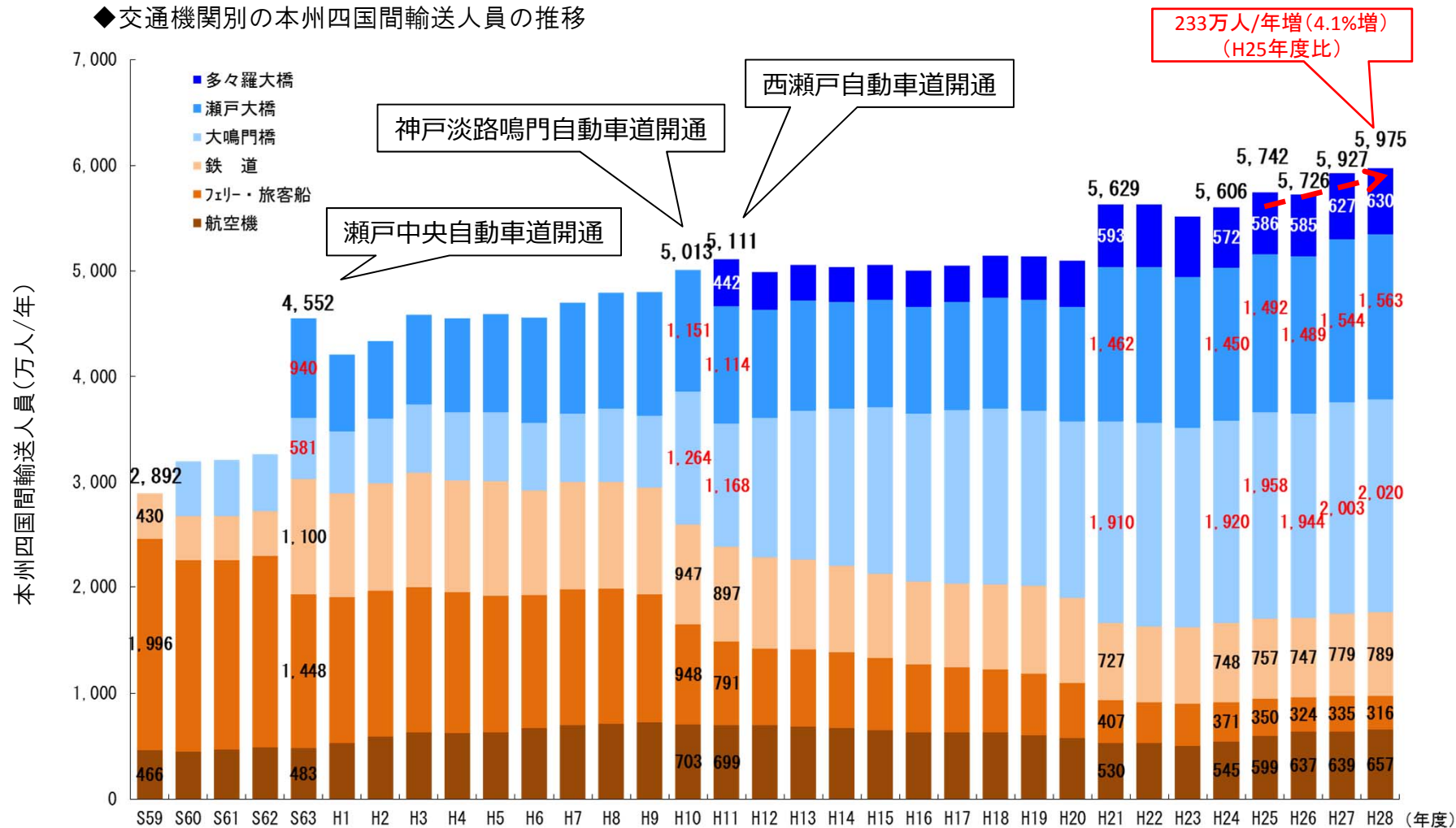
本州四国間の交流(人の交流)

○H28年度の交流人口は5,975万人／年であり、H27年度に対して48万人（約0.8％）増加。

○フェリー・旅客船は減少しているが、それ以外は増加。

○H25年度（協議会目標の基準年）に対して233万人（約4.1％）増加。

◆交通機関別の本州四国間輸送人員の推移



出典) 本州四国連絡高速道路(株)資料、四国運輸局「業務要覧」より作成

注1: 瀬戸大橋開通(1988年4月)以前の鉄道の輸送人員は、宇高連絡船の利用客
開通後は、JR瀬戸大橋線の輸送人員

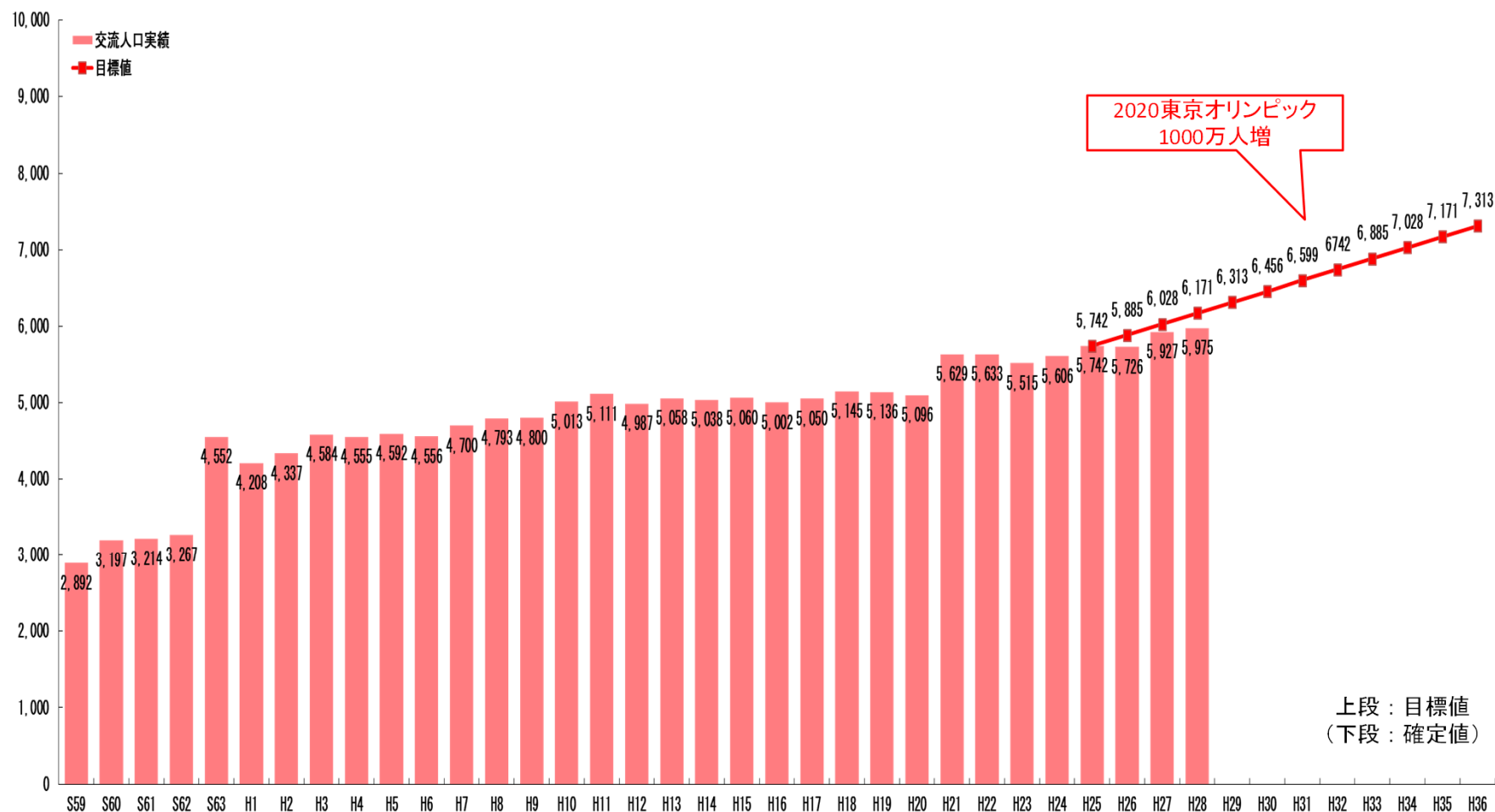
注2: 瀬戸大橋、大鳴門橋、多々羅大橋はそれぞれ県境に架かる橋

本州四国間交流人口の達成状況

○環瀬戸内海地域交流促進協議会で設定した目標の達成状況は、平成28年度では196万人実績が少なく開きが見えてきている。

○さらに取組を強化・拡大し、2020年（東京オリンピック開催）までに1000万人増を目指す。

◆交通機関別の本州四国間輸送人員（推計値）の推移



出典) 本州四国連絡高速道路(株)資料、四国運輸局「業務要覧」より作成

注1：瀬戸大橋開通（1988年4月）以前の鉄道の輸送人員は、宇高連絡船の利用客
開通後は、JR瀬戸大橋線の輸送人員

注2：瀬戸大橋、大鳴門橋、多々羅大橋はそれぞれ県境に架かる橋

本州四国間交流人口の達成状況(県境断面の達成状況)

- 本州四国間の交流人口は目標に対し、やや低めで推移しているが、年々増加傾向。
○H28年度で見ると、目標に対して実績では広島－愛媛県境のみ達成。

		H25		H26		H27		H28		H32
交流人口(万人/年)		()内の伸率は、対H25(基準年)比								
合 計	上段：目標 下段：実績	5,742	→	5,885(+2.5%) 5,726(-0.3%)	→	6,028(+5.0%) 5,927(+3.2%)	→	6,171(+7.5%) 5,975(+4.1%)	→	6,742(+17.4%) 2020年(H32)に交流人口 100万人増加を目標
兵庫－徳島 (神戸・鳴門ルート)	上段：目標 下段：実績	1,958	→	2,007(+2.5%) 1,944(-0.7%)	→	2,056(+5.0%) 2,003(+2.3%)	→	2,104(+7.5%) 2,020(+3.2%)	→	2,299(+17.4%)
岡山－香川 (児島・坂出ルート)	上段：目標 下段：実績	1,492	→	1,529(+2.5%) 1,489(-0.2%)	→	1,566(+5.0%) 1,544(+3.5%)	→	1,603(+7.5%) 1,563(+4.8%)	→	1,752(+17.4%)
広島－愛媛 (尾道・今治ルート)	上段：目標 下段：実績	586	→	601(+2.5%) 585(-0.2%)	→	615(+5.0%) 627(+7.0%)	→	630(+7.5%) 630(+7.5%)	→	688(+17.4%)
その他※	上段：目標 下段：実績	1,706	→	1,749(+2.5%) 1,708(+0.1%)	→	1,791(+5.0%) 1,753(+2.8%)	→	1,834(+7.5%) 1,762(+3.3%)	→	2,003(+17.4%)
【参考】観光入込客(万人回/年)		()内の伸率は、対H25(基準年)比								
兵庫県		7,034	→	7,399(+5.2%)	→	7,224(+2.7%)	→	5,937(-15.6%)		
岡山県		1,232	→	1,422(+15.4%)	→	1,449(+17.6%)	→	1,740(+41.3%)		
広島県		2,344	→	2,405(+2.6%)	→	2,310(-1.5%)	→	2,109(-10.0%)		
徳島県		1,044	→	1,137(+8.9%)	→	1,010(-3.3%)	→	集計中		
香川県		1,539	→	1,712(+11.2%)	→	1,674(+8.8%)	→	1,593(+3.5%)		
愛媛県		1,311	→	1,461(+11.4%)	→	1,497(+14.2%)	→	1,497(+14.1%)		
高知県		590	→	570(-3.4%)	→	集計中	→	集計中		

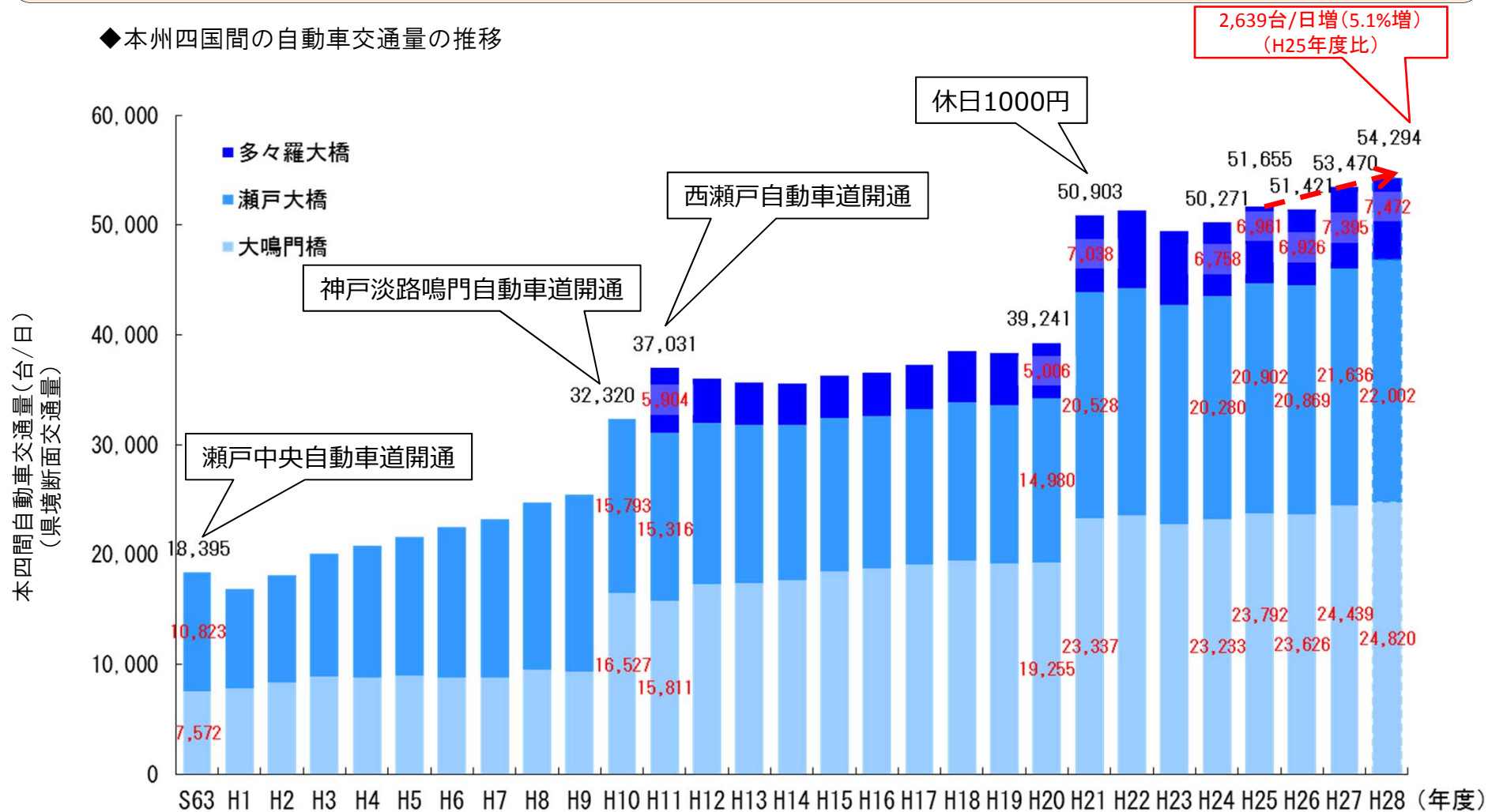
出典) 本州四国連絡高速道路(株)資料、四国運輸局「業務要覧」より作成
観光庁「共通基準による観光入込客統計」

※鉄道、旅客船、フェリー、航空機による交流人口

交通量の状況（本四間自動車交通量(県境断面交通量)）

○H28年度の本四間自動車交通量(3橋)は54,294台／日であり、H27年度に対して824台／日（約2％）増加。
 ○橋梁別でも多々羅大橋が77台／日増、瀬戸大橋が366台／日増、大鳴門橋は381台／日増と3橋とも増加。
 ○H25年度（協議会目標の基準年）に対して2,639台／日（約5.1％）増加。

◆本州四国間の自動車交通量の推移

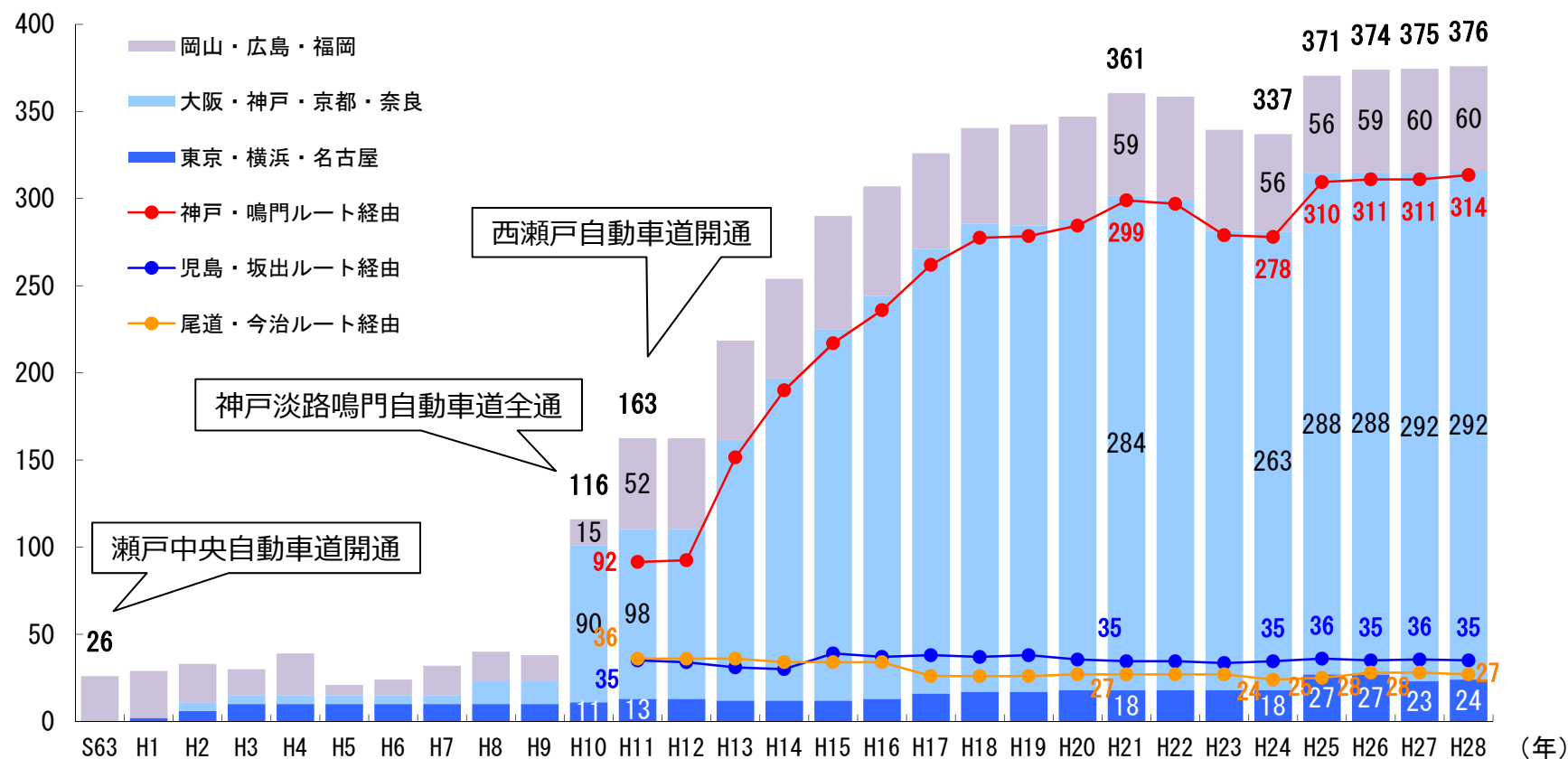


本四間交通量の状況(高速バス)

- 神戸淡路鳴門自動車道開通後のH10年以降、神戸・鳴門ルートを中心に大幅に増加。
- H28年の本四間高速バス便数は376便/日であり、H27年に対して1便/日増加。

◆本州四国間高速バス便数の推移

(往復便数/日)

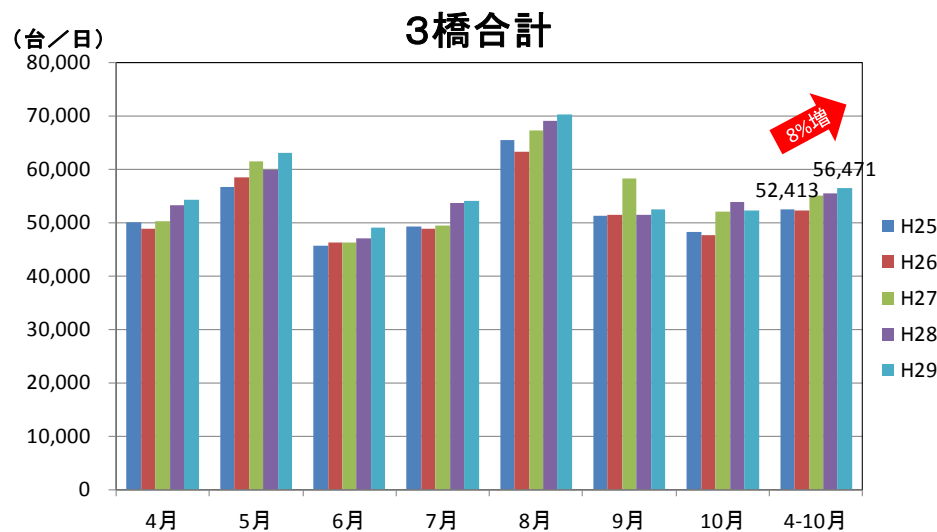
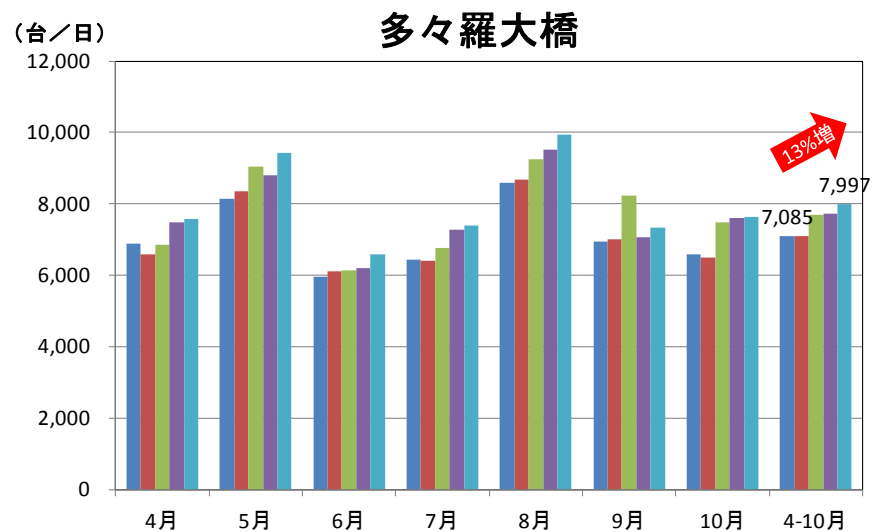
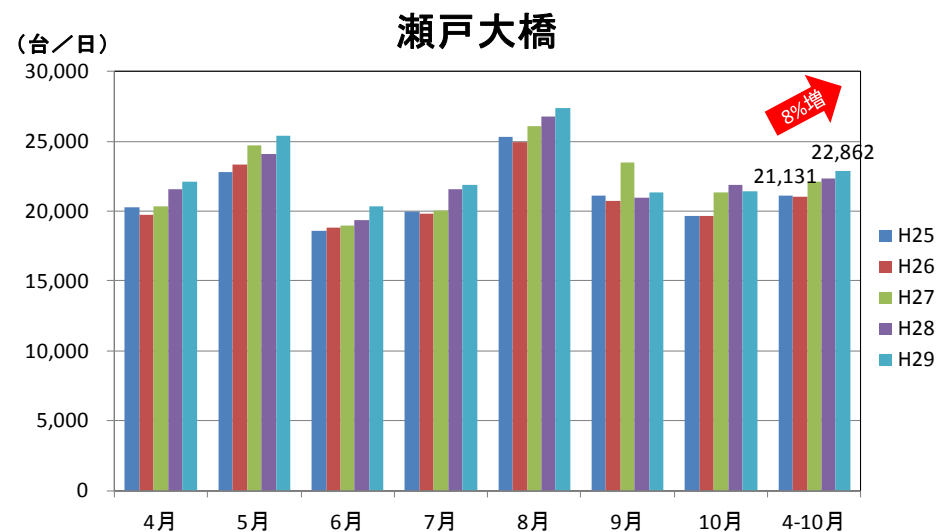
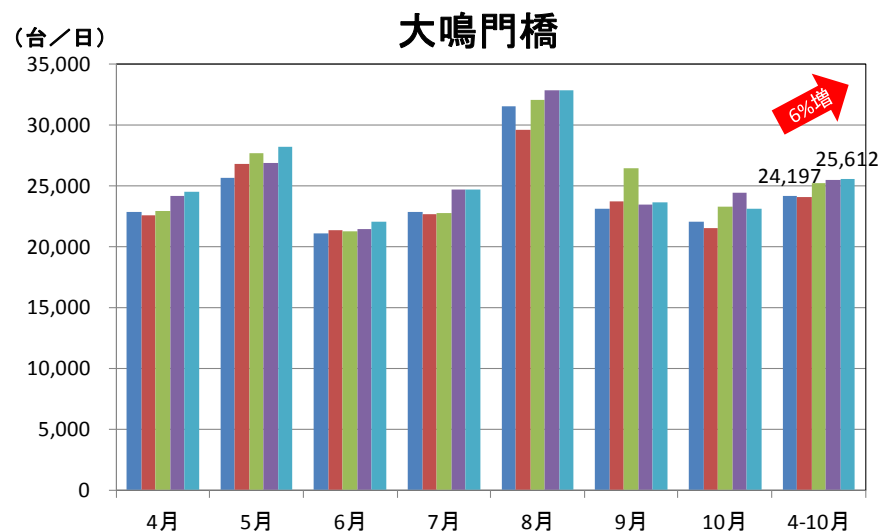


出典「四国運輸局要覧」(四国運輸局)ほか
注：各年10月時点の便数

平成25年4～10月と平成29年4～10月の本四月平均交通量比較

○どの橋も平成25年より多い平均交通量となっており、3橋合計でH25年に比べ4,058台/日（約8%）増加。

※伸率はH29／H25



平成29年4月以降の交通量の変化（大鳴門橋）

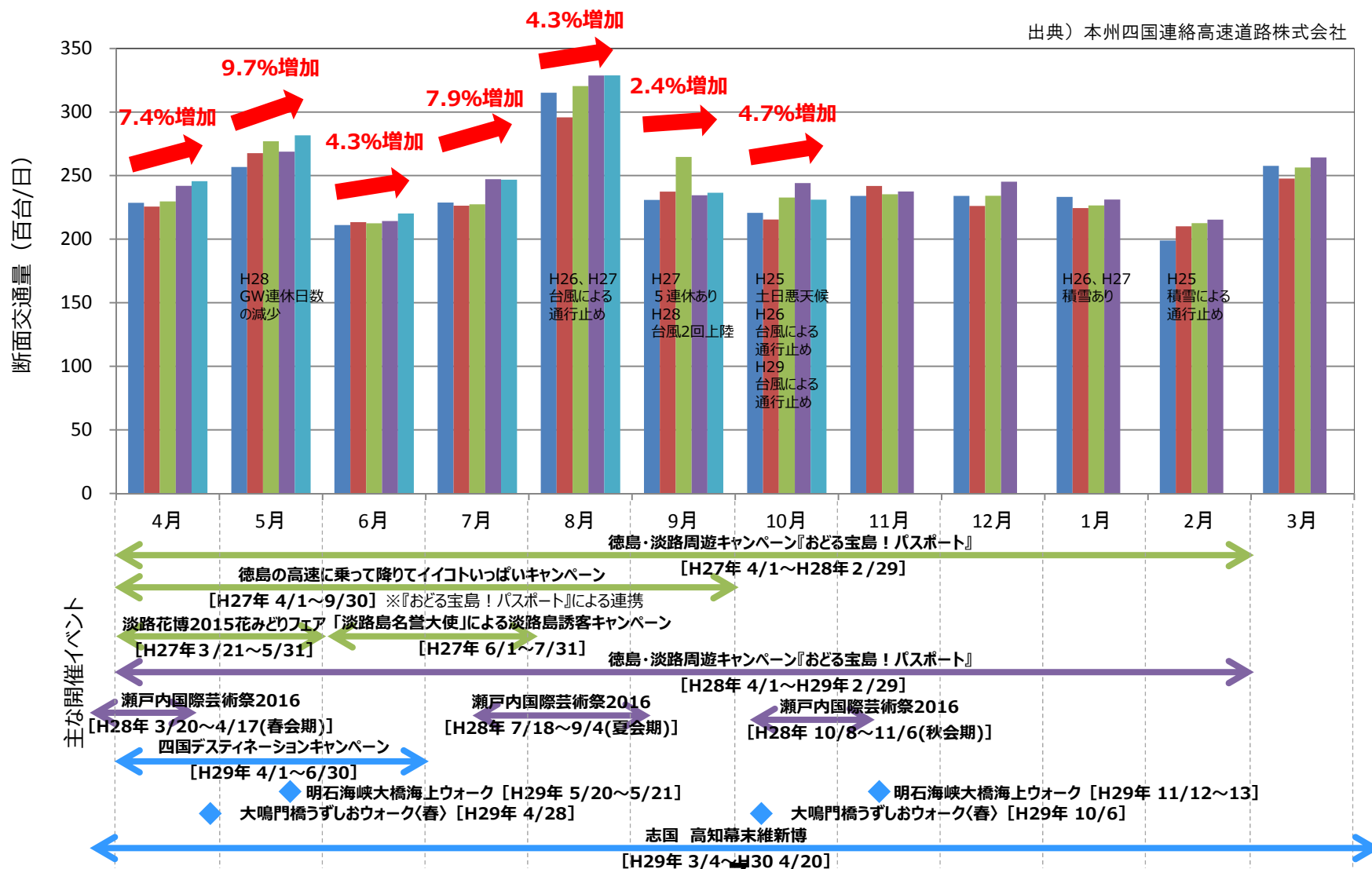
○神戸淡路鳴門自動車道（大鳴門橋）の平成29年度(10月まで)の平均断面交通量は、過去4箇年に対し増加傾向。

【大鳴門橋断面の日平均交通量の変化

（■H25年度⇒■H26年度⇒■H27年度⇒■H28年度⇒■H29年度）】

※増減率はH29年度/H25年度
グラフの交通量は100台単位で表示しているため、増減率の数値と合わない可能性がある

出典）本州四国連絡高速道路株式会社



平成29年4月以降の交通量の変化（瀬戸大橋）

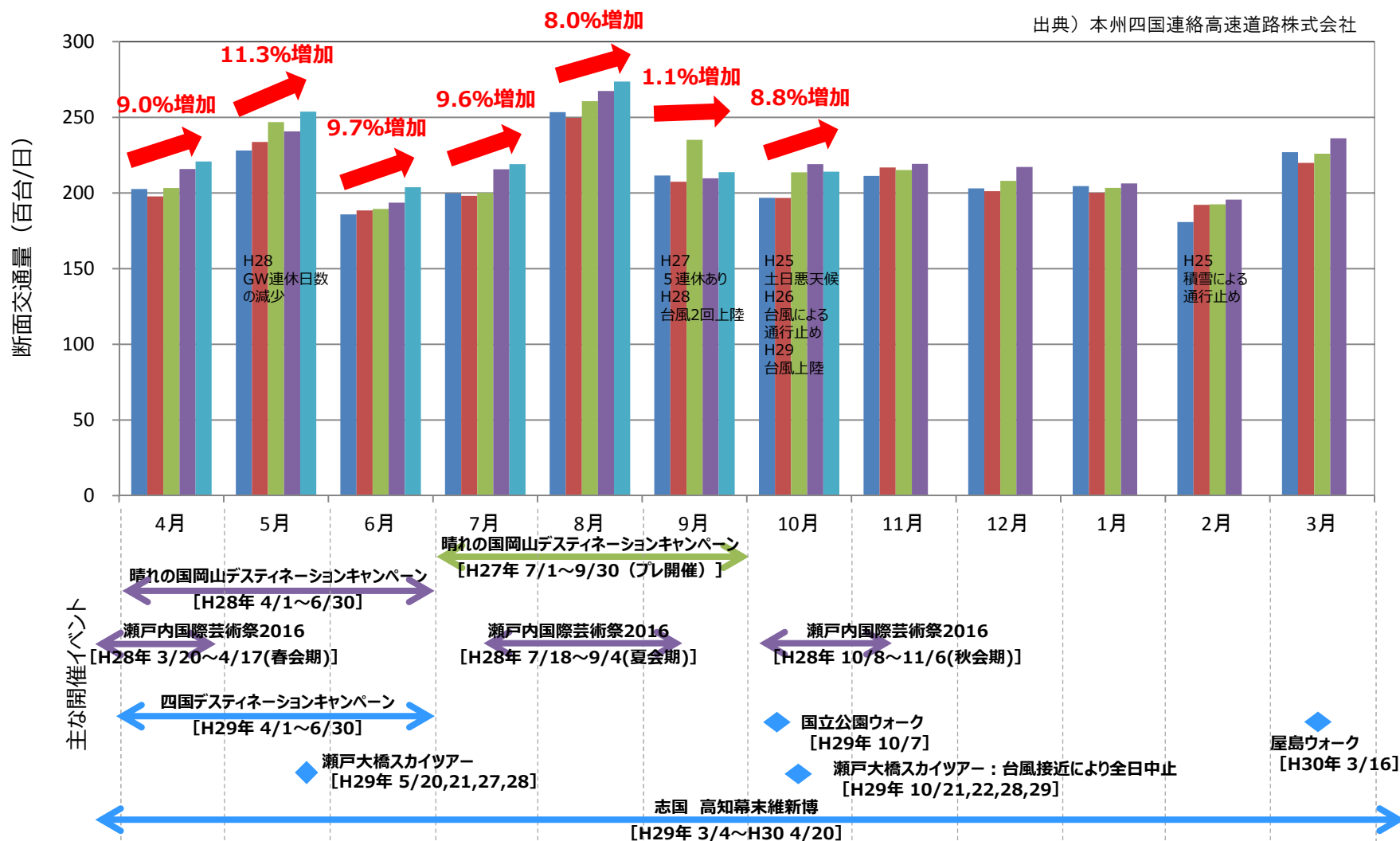
○瀬戸中央自動車道（瀬戸大橋）の平成29年度(10月まで)の平均断面交通量は、過去4箇年に対し増加傾向。

【瀬戸大橋断面の日平均交通量の変化

（■H25年度⇒■H26年度⇒■H27年度⇒■H28年度⇒■H29年度）】

※増減率はH29年度/H25年度
グラフの交通量は100台単位で表示しているため、
増減率の数値と合わない可能性がある

出典）本州四国連絡高速道路株式会社



平成29年4月以降の交通量の変化（多々羅大橋）

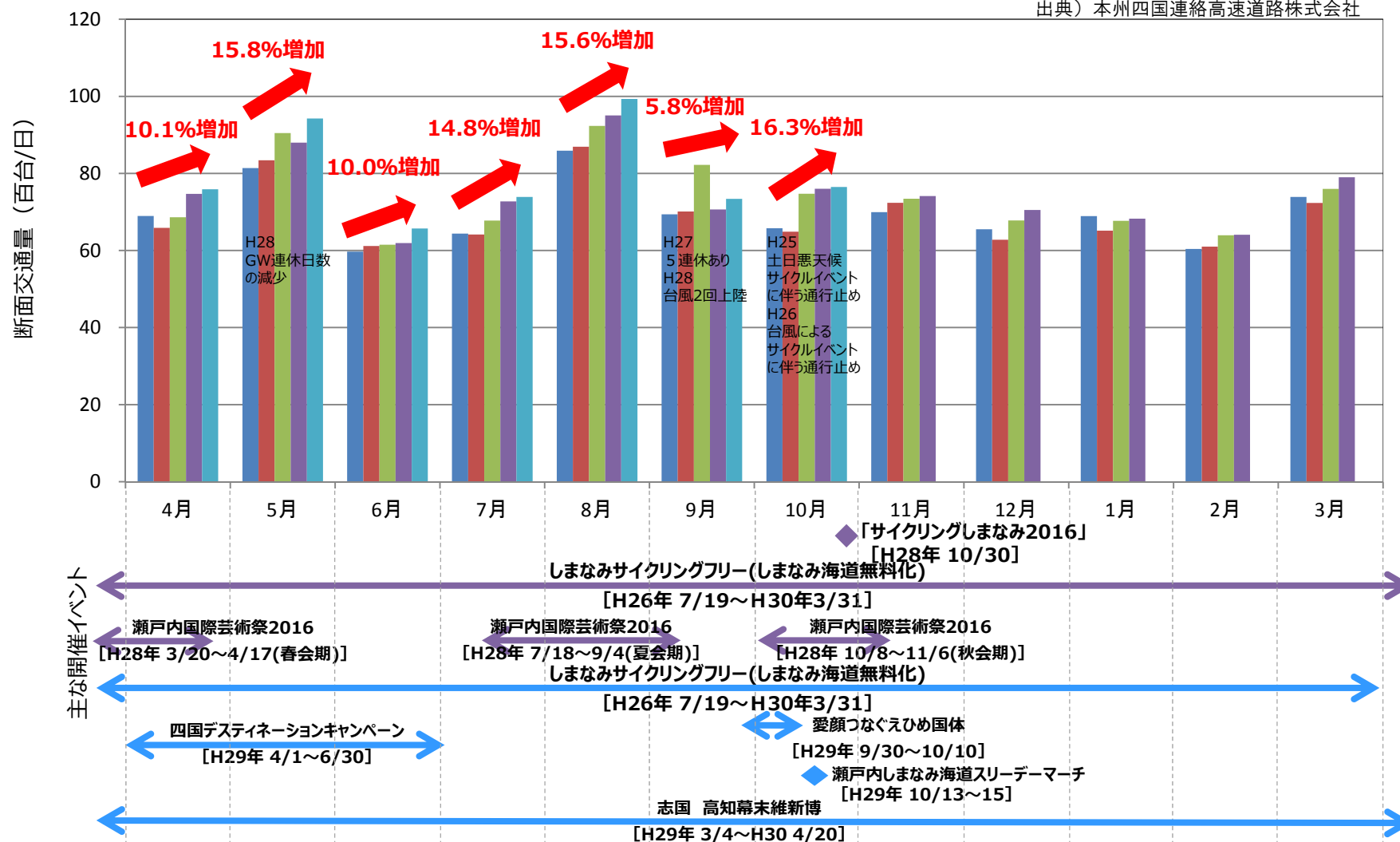
○西瀬戸自動車道（多々羅大橋）の平成29年度(10月まで)の平均断面交通量は、過去4箇年に対し増加傾向。

【多々羅大橋断面の日平均交通量の変化

（■H25年度⇒■H26年度⇒■H27年度⇒■H28年度⇒■H29年度）】

※増減率はH29年度/H25年度
グラフの交通量は100台単位で表示しているため、増減率の数値と合わない可能性がある

出典）本州四国連絡高速道路株式会社



平成29年4月以降の交通量の変化（県境3橋合計）

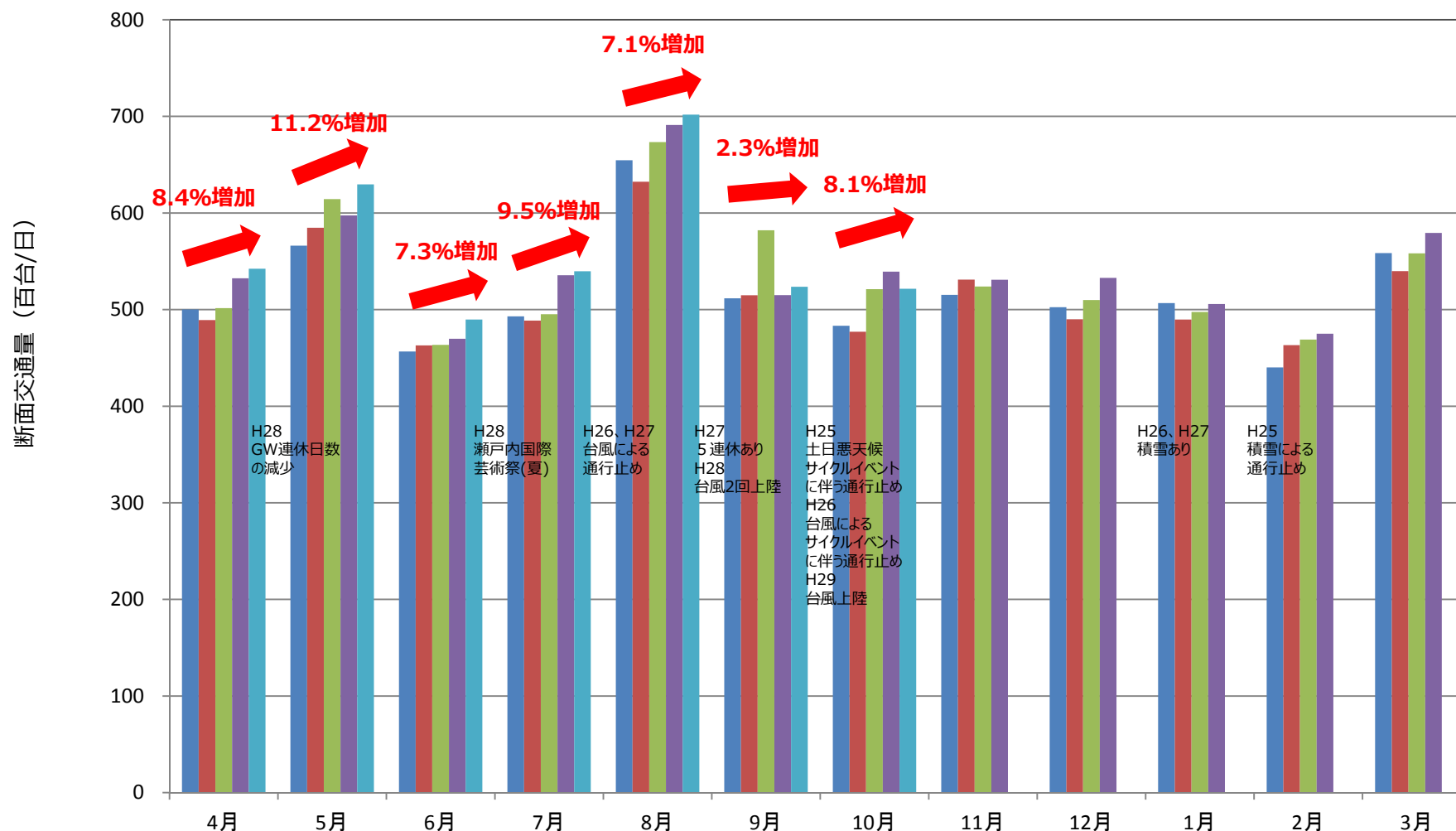
○本四3橋の平成29年度の平均断面交通量は、過去4箇年に対し増加傾向。

【3橋合計の日平均交通量の変化

（■H25年度⇒■H26年度⇒■H27年度⇒■H28年度⇒■H29年度）】

※増減率はH29年度/H25年度
グラフの交通量は100台単位で表示しているため、
増減率の数値と合わない可能性がある

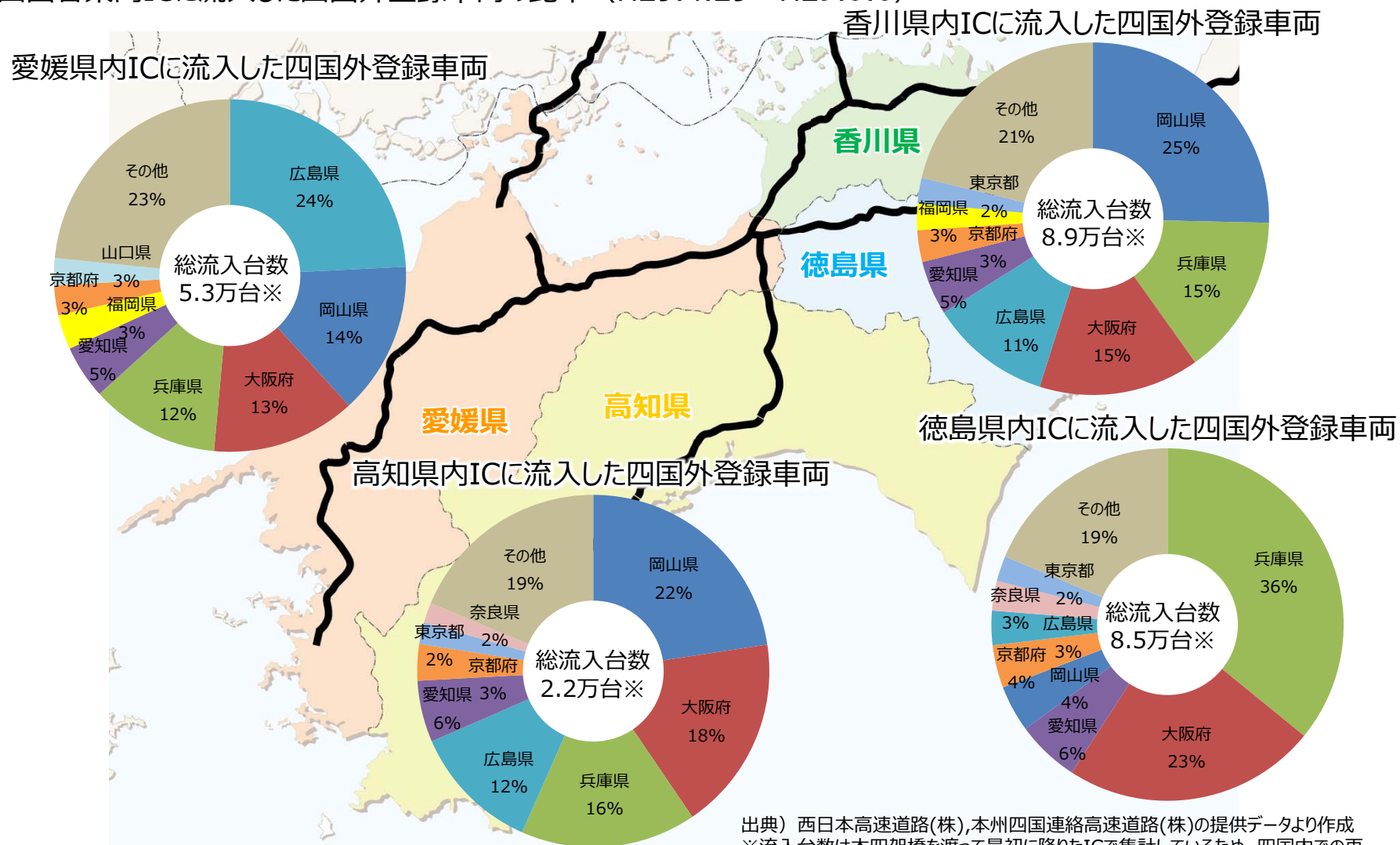
出典）本州四国連絡高速道路株式会社



平成29年GWにおける四国に訪れた四国外登録車両の状況

- 徳島県・香川県・愛媛県内への利用地域は、対岸の兵庫県・岡山県・広島県など環瀬戸地域が多く利用。
- 近隣地域を除いては愛知県・京都府・東京都などの流入も目立っている。

◆四国各県内ICに流入した四国外登録車両の比率（H29.4.29～H29.5.8）

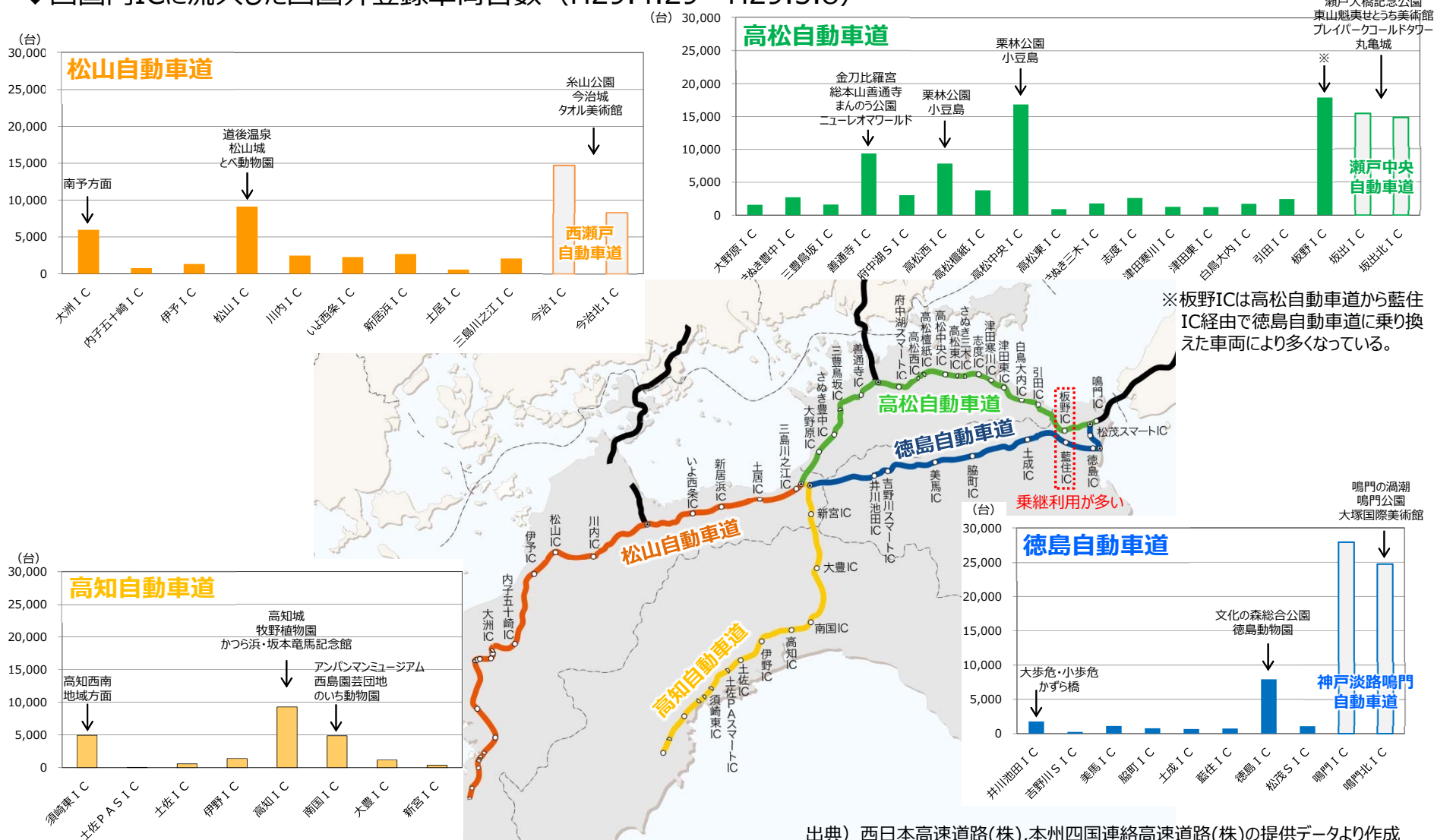


出典）西日本高速道路(株),本州四国連絡高速道路(株)の提供データより作成
 ※流入台数は本四架橋を渡って最初に降りたICで集計しているため、四国内での再移動は入っていない。

平成29年GWにおける四国に訪れた四国外登録車両のIC利用状況

○四国外からの流入した後、最初に降りるICは主要観光地が立地する箇所が多い。

◆四国内ICに流入した四国外登録車両台数（H29.4.29～H29.5.8）



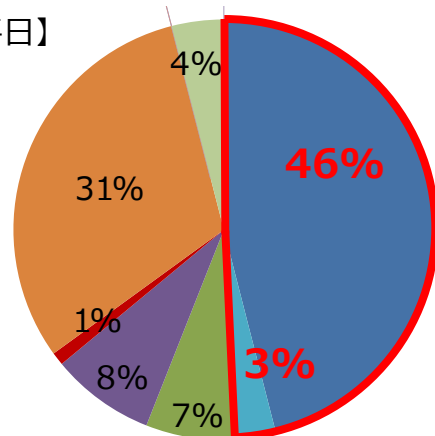
本四高速利用者における交流エリアの分析（観光来訪車両の推定）

- 本四高速が行ったアンケート調査によると、平日で半数以上、休日で約7割が観光関連目的での利用となっている。
- 車両種類での利用状況を見ると小型車（軽自動車、普通自動車）の利用台数の割合が大きい。
- 貨物車は主に物流(仕事)利用であることから、小型車の利用目的は観光関連目的での割合が多いこととなる。以上のことから、小型車の流動を把握し、観光目的での交流状況を分析する。

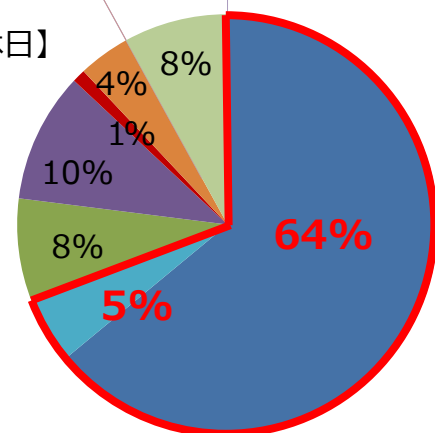
◆ 四国への観光来訪車両の推定

来訪目的（平成24年SAPAアンケート結果）

【平日】

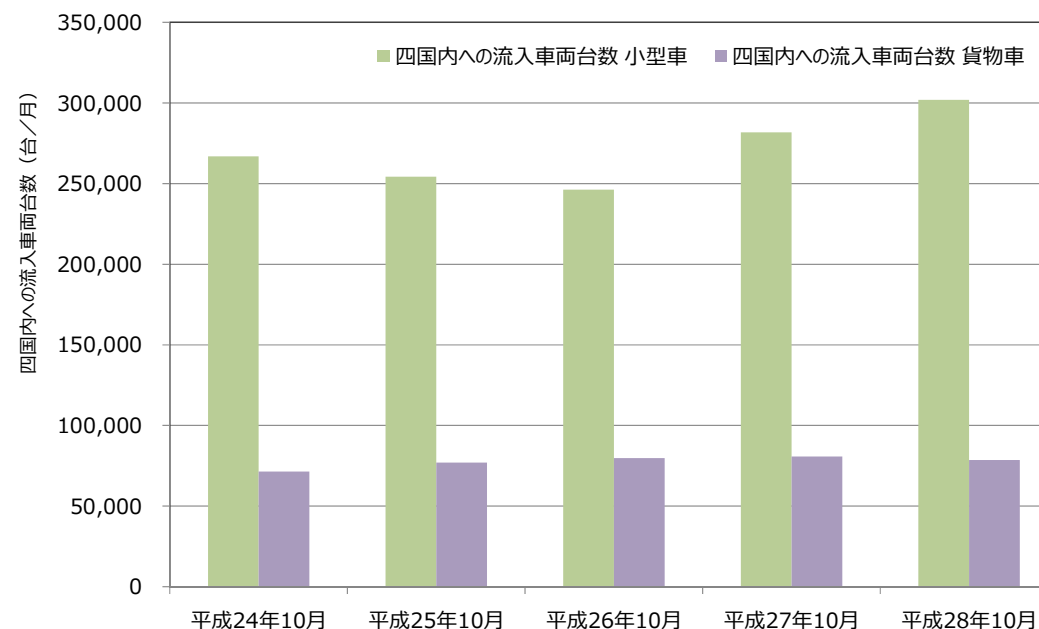


【休日】



出典）本州四国連絡高速道路(株)

四国内への流入車両台数

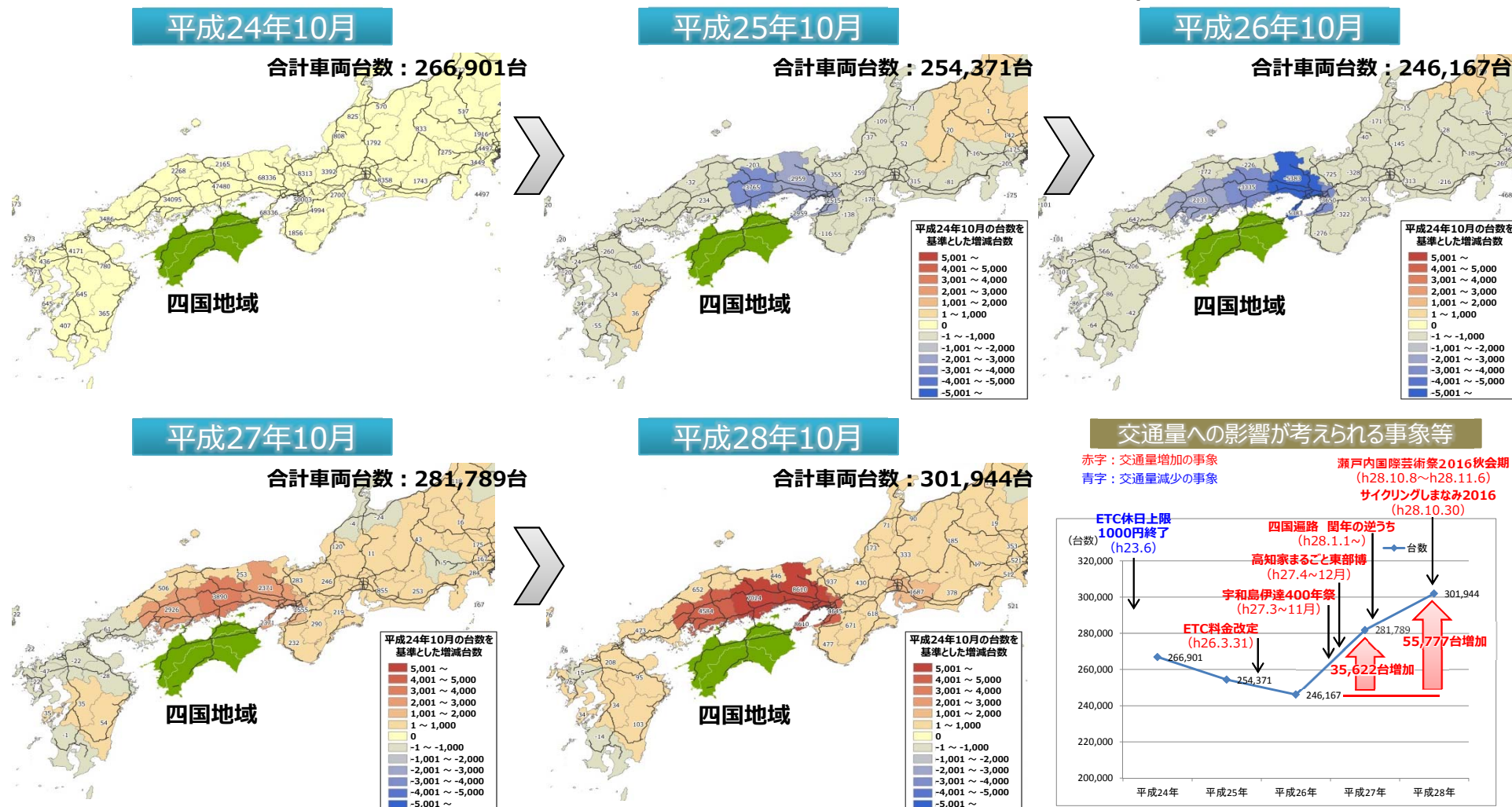


出典）本州四国連絡高速道路(株)の提供データより作成

本四高速利用者における交流エリアの分析（交流エリアと増減要因）

- 平成27年度以降、四国への観光来訪車両が増加するとともに、出発エリアも徐々に拡大。特に、関西圏からの観光来訪車両が増加。交流人口増加が特に環瀬戸内海地域に集中。
- 平成25年～平成26年の減少要因は、ETC休日上限1000円の終了及び悪天候の影響が考えられる。
- 平成27年度以降は瀬戸内国際芸術祭など大型イベントは交通量増加に貢献していたと想定される。

◆ 観光シーズンに四国を訪れた車両ナンバー都道府県別小型車台数の変化（H24→H28）

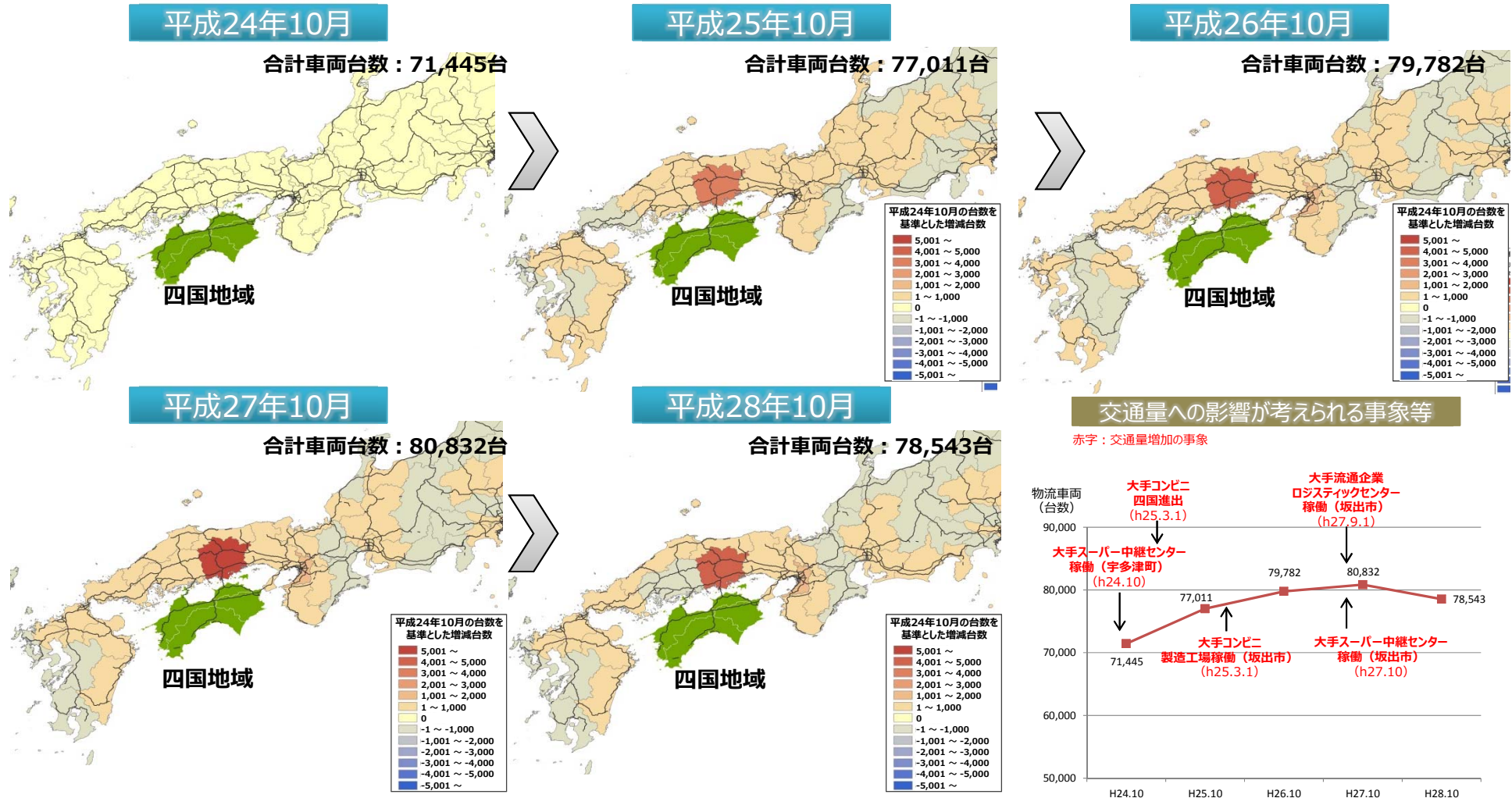


出典）本州四国連絡高速道路(株)の提供データより作成

本四高速利用者における交流エリアの分析（物流）

- 四国では坂出市を中心として物流拠点の稼働や大手コンビニの進出などにより交通量の増加がみられる。
- 貨物車両（物流）は、割引や料金改定及び天候などの影響に関係無く、都道府県毎の変化は見られない。
- このことから、交通量への変化は小型車の影響が大きく受けているものであり、小型車の交通変化の把握により、観光目的による交流状況を確認することができる。

◆ 観光シーズンに四国を訪れた車両ナンバー都道府県別貨物車両台数の変化（H24→H28）



出典）本州四国連絡高速道路(株)の提供データより作成

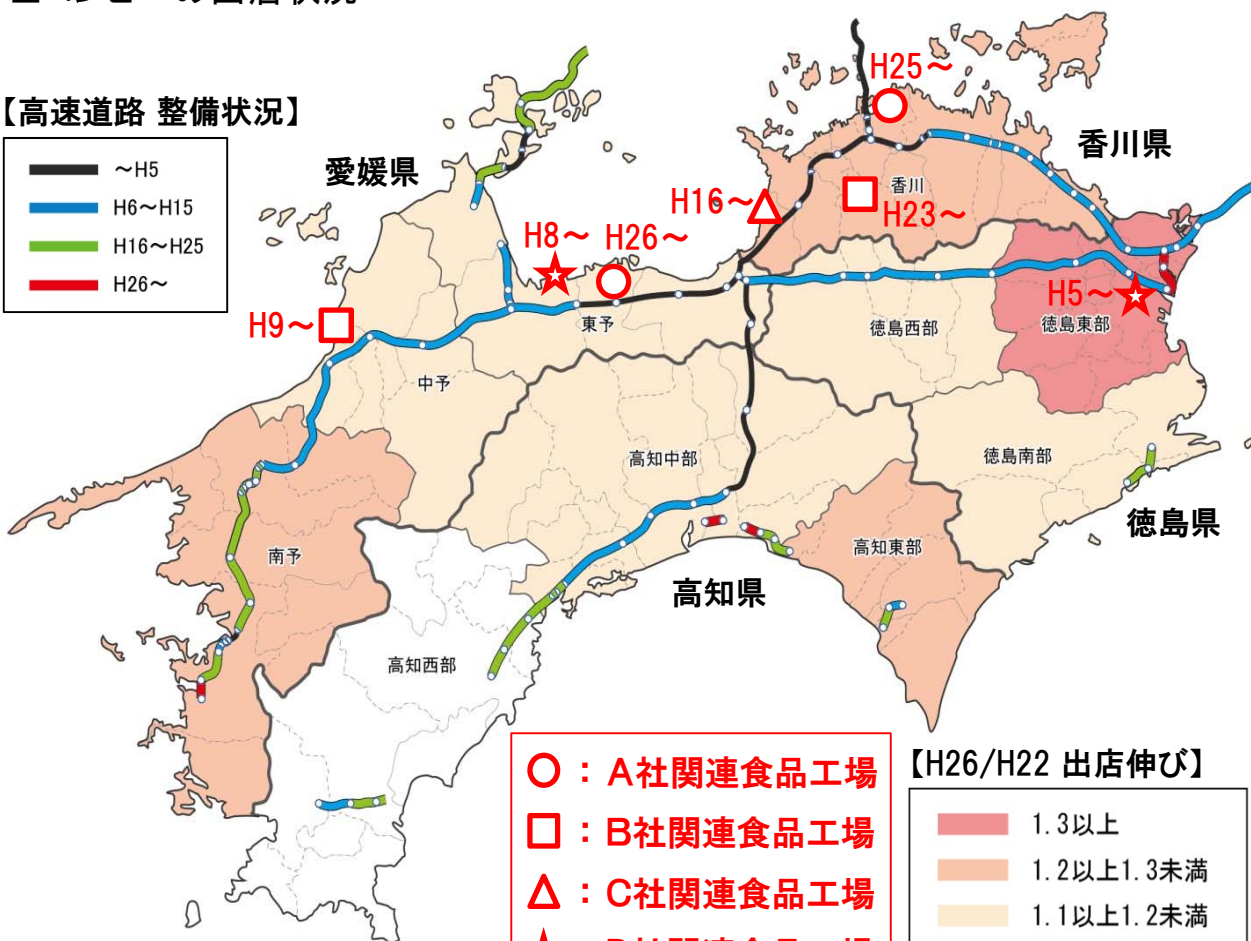
8の字ネットワークの延伸により配送圏が拡大し、戦略的な工場立地が可能に

○高速道路延伸により食品配送エリアが拡大し、工場立地の採算確保が見込まれたため高速道路IC付近に大手コンビニの食品工場が立地。

○食品工場の立地により、四国内のコンビニ店舗は約14倍に増加。

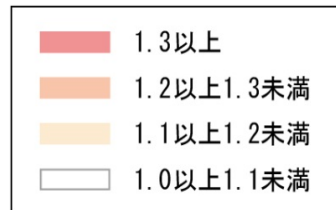
■コンビニの出店状況

【高速道路 整備状況】



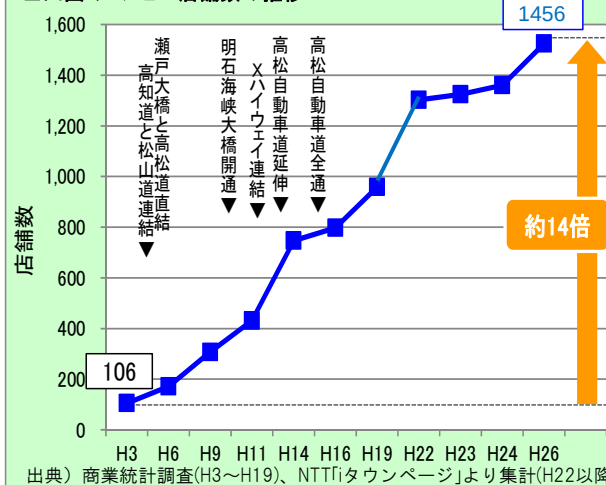
○ : A社関連食品工場
 □ : B社関連食品工場
 △ : C社関連食品工場
 ★ : D社関連食品工場

【H26/H22 出店伸び】

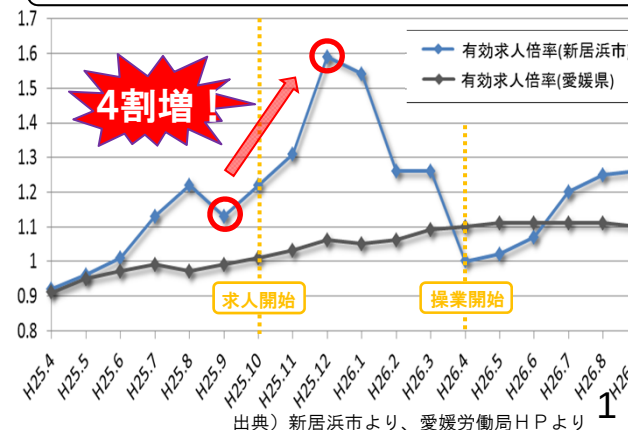


資料) NTT「iタウンページ」に基づき集計 (H26.9月現在)

■四国のコンビニ店舗数の推移



A社関連食品工場(新居浜市)
 従業員約500名(正社員46名、パート約450名)
 10月に求人開始後に有効求人倍率が4割増

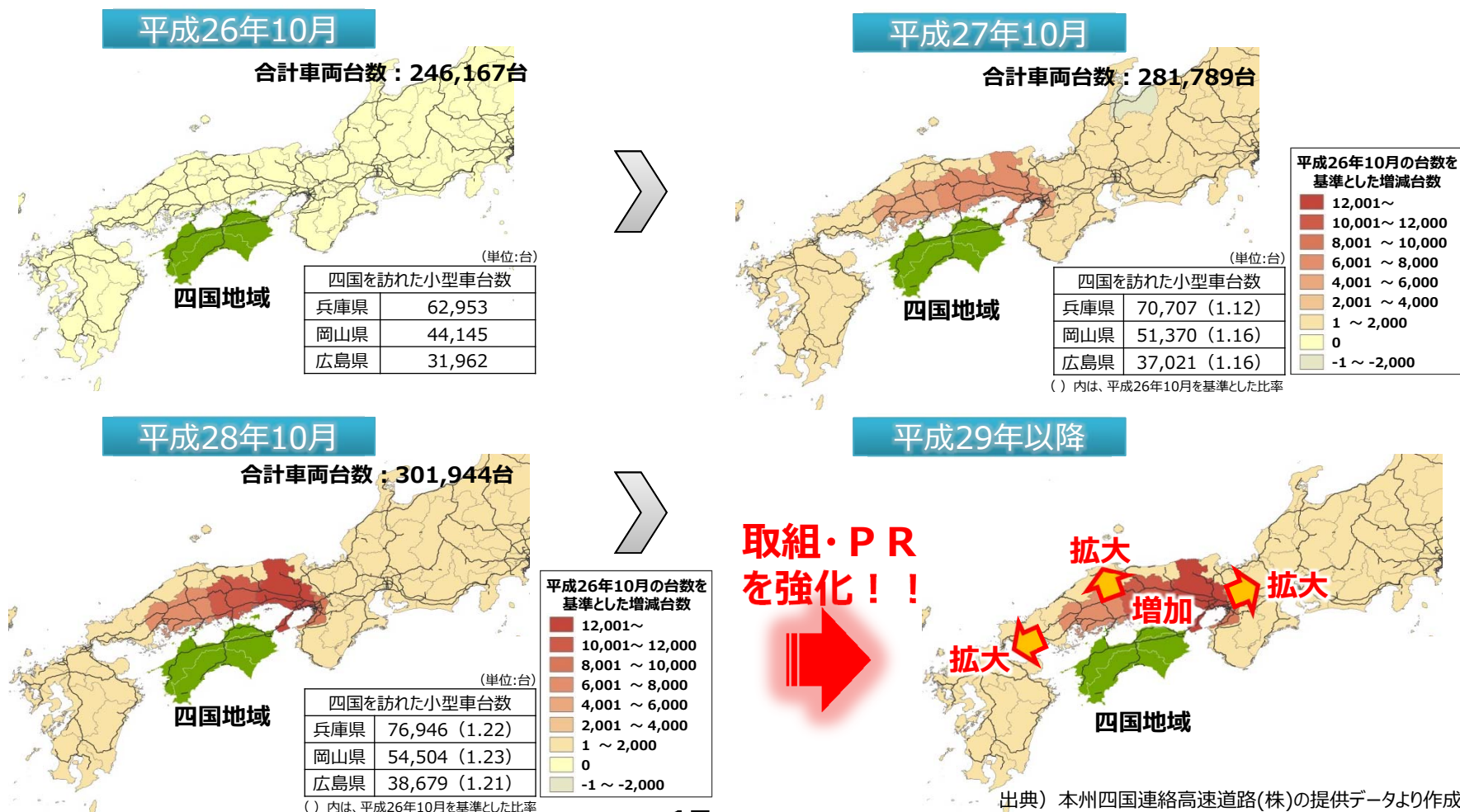


出典) 新居浜市より、愛媛労働局HPより

本四高速利用者における交流エリアの分析（環瀬戸内海地域の交流）

- 協議会設立（平成26年3月）以降は、環瀬戸内海地域である兵庫県・岡山県・広島県からの交流が増加。
- 県別に見ると、平成26年と平成28年を比較すると、兵庫県では13,993台／月（約1.22倍）の増加。岡山県は10,359台／月（約1.23倍）の増加。広島県は6,717台／月（約1.21倍）の増加。
- 今後、さらに交流人口を増加していくため、環瀬戸内海外地域における取組及びPR活動を強化し、交流エリアの拡大・増加が望まれる。

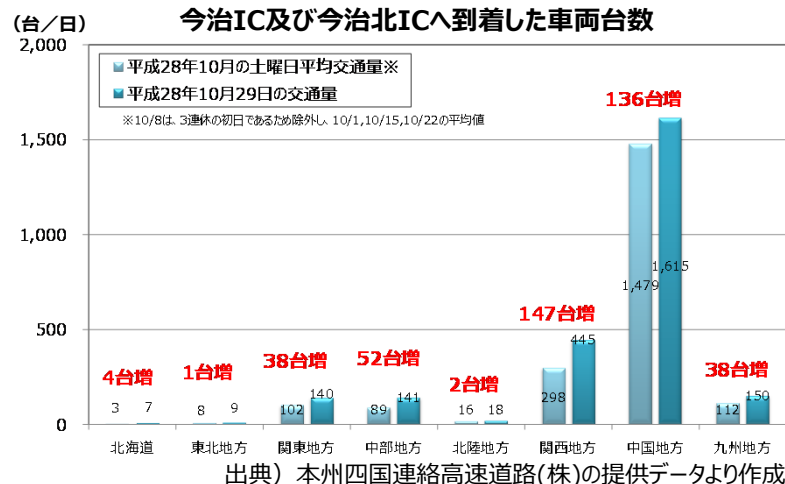
◆ 観光シーズンに四国を訪れた車両ナンバー都道府県別小型車台数の変化（協議会設立以降H26→H28）



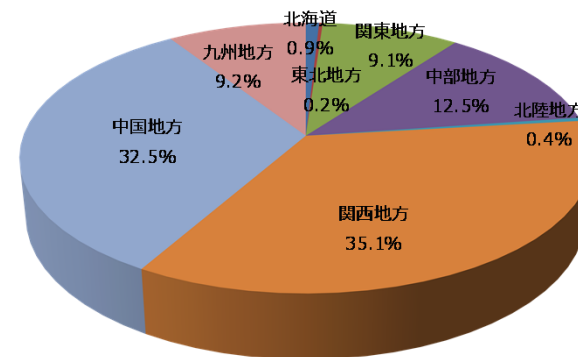
“サイクリングしまなみ2016”開催による交流エリアの分析

- “サイクリングしまなみ2016”の開催（3,000人規模）により、大都市圏を中心に、中部地方からの来訪が136台増、関西地方からの来訪が147台増など、イベント開催により各地域との交流人口増加に貢献していることが分かる。
- 近隣の中国地方からの増加率が意外と低く、特に増加の見られない山陰地域との連携やイベントPRをさらに強化が必要。

◆ 今治IC及び今治北ICに到着した車両の登録ナンバー都道府県別台数



◆ 今治IC及び今治北ICに到着した車両増加台数の地域別比率



合計増加台数：417台

出典）本州四国連絡高速道路(株)の提供データより作成

◆ 今治IC及び今治北ICに到着した車両の登録ナンバー都道府県別台数

平成28年10月の土曜日（通常）
【平成28年10月の土曜日平均交通量※（全車種）】

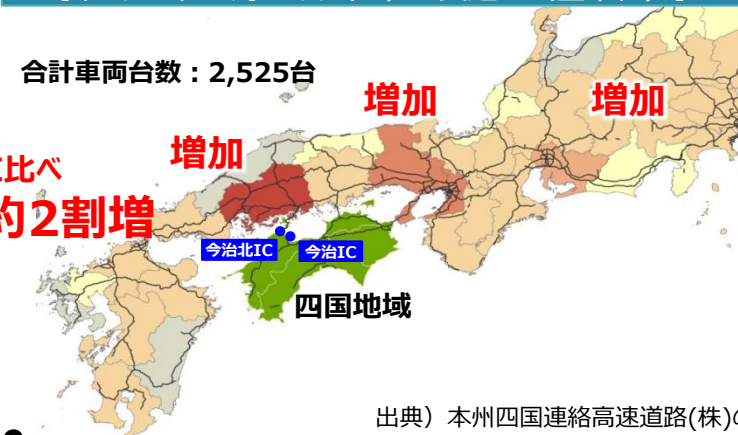
※10/8は、3連休の初日であるため除外し、10/1,10/15,10/22の平均値

平均車両台数：2,108台



“サイクリングしまなみ2016” 受付日
【平成28年10月29日（土）の交通量（全車種）】

合計車両台数：2,525台



通常の土曜日に比べ
四国外車両が約2割増

出典）本州四国連絡高速道路(株)の提供データより作成